

#### (4) 前年度の学校評価

##### ア 自己評価結果

昨年度の重点目標	全教職員が多種、多様な情報を共有するとともに、協働し、生徒の指導にあたることのできる体制作りを推進する。教職員が範を示し、一丸となって、地域から愛される工業高校としての誇りを持った教育活動を推進する。主体的な学びにより工業の専門知識・技術・技能を身につけた上で、次世代社会の担い手となるよう、心豊かで、崇高な倫理観を備える工業人を育成する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
PTA活動(総務部)	PTA活動をおとして、本校の教育活動の向上を図る。	PTA行事等に多くの保護者の参加を促し、学校に対する御意見・御要望を集約する。また、各種行事が魅力あるものになるよう工夫し、保護者が参加しやすい環境の構築を図る。	PTA役員・委員とのコミュニケーションを密に取り、PTA行事に多くの保護者が参加できるような雰囲気構築した。また、多様な意見にも耳を傾け、より保護者との関係が強固になるように努めた。PTA行事などの見直しの必要性が浮き彫りになってきているため、精選していきたい。
学習指導(教務部)	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指して指導に当たるとともに、学ぶことの楽しさや達成感を体得させ、自ら学び続ける意欲や態度を養う。	年度当初において「わかる授業のための調査」を生徒に対して実施し、わかる授業の実践に心がける。	各科目担任が「わかる授業」を心がけることができた。また、他教員の授業参観や研究授業等の研修に参加し、授業改善に努めた。
生活指導(生徒指導部)	生徒の生活リズムを整える指導を継続的に実施し、遅刻の減少を図る。	複数回遅刻をする生徒に対して、早朝登校や保護者連絡などの継続的な指導を実施し、生活習慣の見直しを促す。	複数回遅刻をする生徒に対して、継続的な指導を行うことで、生徒の生活習慣に対する意識の変化があった。また、担任や各学科と情報を共有することで、生徒の状況に合った指導を行うことができた。今後も生徒の状況に合った継続的な指導を実践したい。
特別活動(生徒会部)	本校生徒の魅力や活力が、地域や中学生に伝わるようホームページでのTwitterの活用を進める。ボランティア活動の機会を設定することで、ボランティア精神を育む。	Twitterの掲載内容について①学校行事の写真、様子、生徒の感想を紹介する。②部活動の試合結果、日々の活動などを随時更新する。本校主催のボランティア活動においては、活動中の安全確保のため監視員の配置やグループ活動で実施する。	体育祭、文化祭などの様子をX(旧Twitter)に掲載した。来年度以降は部活動の活動の様子や大会などの写真も掲載できるようにしたい。ボランティア活動であるグリーンプロジェクトは、総勢200名以上の生徒が参加し、事故なく安全に実施することができた。
進路指導(進路指導部)	望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	各学年に応じた進路行事を通して、進路意識を高める。学年との連携を密にし、進路に関する情報を迅速に提供し共有する。	進路に関する情報は、ロイノートを活用することで、迅速に提供することができた。2年生の1学期に進学希望者に対するガイダンスを実施した。進路指導の充実を図るため、求人票の公開方法や進路意識を高める新たな取り組みなど、進路行事の内容について検討していきたい。
保健・美化(保健部)	心身ともに健康な生徒の育成を図る。	生徒保健委員会、生徒美化委員会の年間を通じた積極的な活動。相談活動や支援を必要とする生徒への適切な対応と校内連携の実施。	保健委員、美化委員ともに与えられたそれぞれの仕事を責任を持って取り組むことができた。SC、SSWを活用し、学校生活によりよく適応していけるように積極的に支援することができた。
図書館活動(図書部)	図書館の活性化	図書委員による自発的な活動を促し、生徒主体の魅力ある図書館作りを目指す。	図書館運営に、図書委員が協力的で真面目に取り組んでくれた。図書館行事にも積極的に関わり、図書館を活性化しようと努力してくれた。教職員も図書委員への助言をしながら図書館の活性化に尽力した。図書委員の自発的な活動や図書館利用者の増加など、不十分な部分もあったが、図書委員と共に来年度に向けて、広報活動の工夫などについて話し合い、さらなる図書館の活性化を目指したい。
工業教育に関する活動(工務部)	学科との連携を図り、進路実現や資格取得など生徒に具体的な目標を持たせる。技術顕彰やジュニアマイスターの取得者数などの向上を図るための指導体制を充実させる。	検定試験や資格の告知、掲示の仕方を工夫し、多くの生徒に周知する。技術顕彰やジュニアマイスターについてわかりやすく案内を掲示する。	まだまだジュニアマイスターのポイント数まで届かない。自主的な勉強によって資格が取れるような生徒はあまりいない。資格取得に挑戦したい生徒は多くいるので、教員側のアシストによって、学年を追って難易度の低い資格から順次挑戦でき、合格に導けるような体制づくりを目標にした。学科や学年会との連携協力が必要で、これを模索したい。この体制が整えばジュニアマイスター取得への道が開けると思われる。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
(機械科)	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指して指導に当たるとともに、安全教育を充実させた実習運営を実施する。	習熟度別授業やティームティーチング授業、補習授業などを工夫して授業展開を行う。 安全マニュアルを準備し、作業上の注意点などを理解させたくえで作業を進める。	単元毎に授業の進捗と学習状況を逐次報告しあうことができ、手厚い教科指導ができていた。また、個別指導が必要な生徒は、声をかけその都度指導をしている。 安全作業の心構えができるよう、各実習室にパネルを設置し、服装・保護具の装着など基本的な事項を示したのから、工作機械の正しい使用方法を示したのまで用意した。今後は、実際の場面を想定できる動画などを準備するなど効果的な方法を研究していく。
(電気科)	安全教育の充実を目指して、実習室の環境の整備と新しい実習装置を活用した指導方法の確立	日常における実習室の環境整備、危険予測と安全作業の徹底。模擬送電装置の活用方法の研究と指導書の作成。	安全教育として、電気を扱う上での危険性を学ばせるとともに安全作業の看板を掲示し、生徒の意識を高めることができた。課題研究を通して、模擬送電装置を活用して送電時の電圧降下の測定を実験し、報告書にまとめた。 安全面や専門的な知識など、工業の分野において主体的に考えて取り組める生徒の育成を目指したい。
(IT工学科)	IT工学の知識・技能の確実な定着を目指して指導に当たる。	学年、学科と連携を図りながら、生徒指導、学習指導に取り組む。資格取得を促し、主体的に取り組む姿勢を養う。 学科紹介、学校見学会、HPなどを通して、学科の情報を発信する。	3年生の専門科目を今年度よりスタートさせたが、限られた場所、物品等により苦慮した。 昨年度に引き続き、学年、学科と協力し、生徒指導、学習指導に取り組めた。また、学科紹介、見学会、文化祭展示、出前授業、実技講習会の参加やHPでの情報発信を行えた。 今後も協力関係を構築し、指導体制の改善を図りながら、IT工学科の魅力発信を継続したい。
(エネルギーシステム科)	生徒に進路目標の指導助言を行い、生徒の目標に合わせた資格を取らせる。	学年に合わせた就職・進学知識として、仕事の分野や具体的な就職先に必要な資格の話をする。そこで取得すべき資格の種類知識を付けさせ、取得の目標を持たせる。	2年生に対して、仕事の分野や具体的な就職先に必要な資格について情報を提供することができた。また、取得すべき資格の種類知識を付けさせ、取得の目標を持たせることができた。 3年生に対しては、生徒の適正および希望に合った就職先や進学先について情報を提供することが出来た。 就職先や進学先が決まってからも資格を取得するように指導していきたい。
(エネルギー化学科)	安全教育の充実を図り、工業の基礎基本の知識技術ならびに、化学工業の基礎基本の知識技術を身につけ、工業人として社会に貢献できる人材育成を目指す。	日々の学習指導の充実や提出物指導の徹底。 実習や日々の授業を通じてより多くの教員と関わりを持たせ、多くの目と手で生徒の成長を目指し指導していく。	安全教育の充実のため、各教室に安全マニュアルを設置し、生徒の事故などが起こらないよう配慮を行ってきた。また、学習指導や補修も一部の教諭だけでなく、ほぼ全員体制で行ってきた。これにより、就職や進学などの相談窓口を増やす役割もできたと考えられる。 近年の流れで生徒間の理解度に差が生じているので、その差を埋めるべく指導を続けたい。
学年経営(第1学年)	規律を守り、目の前のことに一生懸命取り組むことができる真摯な態度を育成し、他人と信頼関係を築くことができるようにする。	挨拶や身だしなみに気を付けて生活できるようにあらゆる場面で声をかける。また、提出物等の期限を守ることなど、約束を守れるように指導する。	学校生活のあらゆる場面で成長が見られる生徒が増えた。しかし一方では、成長速度が遅く、理解度が低い生徒もみられるため、担任のみならず、すべての教員で指導していく姿勢と体制の構築が必要であるとする。
学年経営(第2学年)	学習や資格取得に積極的に取り組む姿勢と、進路実現における自己理解と他者との協働を主体的に取り組む姿勢をサポートする。	各分掌と協力して生徒に情報提供を行う。修学旅行やインターンシップなどの学校行事を有意義なものにするようにする。	学年だけでなく、学科や分掌の協力により、1年生の時より精神的に成長し、落ち着いた学校生活を送れるようになってきた。 部活動や資格取得など積極的に取り組む生徒も多くなるが、インターンシップの参加希望者が減少傾向にあり、参加者を増やす方策が必要であると感じた。
学年経営(第3学年)	進路実現や資格取得に向けて、自ら積極的に学習する態度の育成と学習習慣の確立。集団生活における自己の主体性と協調性の育成を目指す。	各担任間で考えを統一し、一貫した指導を行う。その中でも主体性を損なうことなく、自身の目標達成のために努力を積み重ねることができ環境を整え、学科との連携を密にすることで、分厚いサポートを行う。	この3年間で成長した面も多く見られるが、社会へ出るための準備期間としては決して十分とは言えないのが現実である。それでも学校行事などクラスや学年で団結するべき場面でお互いに協力しながら取り組む姿勢は最高学年として誇らしく思えた。 高校生活やこれまでの18年間で得た経験を今後の人生に少しでも活かしてもらい、充実した生活を送ってもらいたいと切に願う。
総合評価	全教職員が多種、多様な情報を共有するとともに、協働し、生徒の指導にあたってきた。その結果、学校生活のあらゆる場面をととして生徒の成長につながっている。また、在学中に成人年齢となり、卒業後は社会で活躍する人材だという意識を強く持つようになった。加えて、安全に対する対策と意識を高めてきた。今後も各分掌、各学科において指導を継続するとともに、課題の発見に努める。		